

# Asia Indicators

発表日: 2026年1月5日(月)

## 韓国、ウォン安もインフレ圧力増幅の一因に(Asia Weekly(12/30~1/2))

～インドネシアでもルピア安がインフレ圧力を増幅させる一因となる動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/31(水)	(韓国)12月消費者物価(前年比)	+2.3%	+2.3%	+2.4%
	(中国)12月製造業PMI	50.1	49.2	49.2
	12月非製造業PMI	50.2	--	49.5
1/1(木)	(韓国)12月輸出(前年比)	+13.4%	+9.0%	+8.4%
	12月輸入(前年比)	+4.6%	+2.5%	+1.1%
1/2(金)	(インドネシア)12月消費者物価(前年比)	+2.92%	+2.73%	+2.72%
	11月輸出(前年比)	▲6.60%	▲0.53%	▲2.31%
	11月輸入(前年比)	+0.46%	+3.20%	▲1.15%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

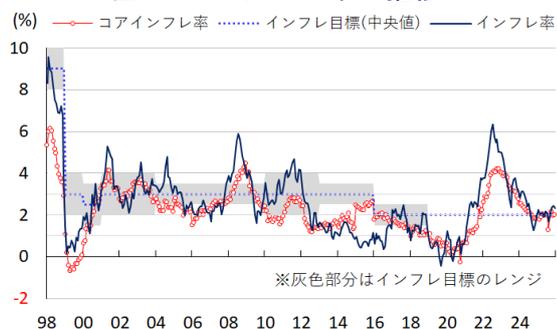
### [韓国]～生活必需品を中心に物価上昇が続いているほか、ウォン安の動きもインフレ圧力が強まる一因に～

先月31日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比+2.3%となり、前月(同+2.4%)からわずかに伸びが鈍化するも、4ヶ月連続で中銀目標(2%)を上回る伸びで推移している。前月比は+0.32%と前月(同▲0.19%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の調整にもかかわらずエネルギー価格は上昇するとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%と前月(同+2.0%)から横這いとなり、中銀目標で推移している。ただし、前月比は+0.17%と前月(同▲0.13%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに上昇圧力が掛かるとともに、金融市場における通貨ウォン安の進展を受けた輸入物価の押し上げも重なり、幅広く財価格が押し上げられるなどインフレ圧力が強まる動きがみられる。

1日に発表された昨年12月の輸出額は前年同月比+13.4%となり、前月(同+8.4%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。トランプ関税の本格発動による悪影響が懸念されたものの、その後の米国との合意により関税率が引き下げられているほか、金融市場におけるウォン安の進行を受けた輸出競争力の向上も追い風に輸出が押し上げられている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、自動車や船舶といった輸送用機械関連など幅広い分野で輸出は堅調な動きをみせている。一方の輸入額も前年同月比+4.6%となり、前月(同+1.1%)から伸びが加速している。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じた試算されるなど頭打ちの流れが変化し

ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。足元の輸出は堅調な動きをみせているものの、先行きに対する不透明感が素材や部材などの需要の重しとなるとともに、国際商品市況の調整の動きも輸入額を下押しする展開が続いている。結果、貿易収支は+121.80億ドルと前月(+97.40億ドル)から黒字幅が拡大している。

図1 KR インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～生活必需品のみならず、幅広くインフレ圧力が強まるなか、ルピア安もインフレ圧力の一因に～

2日に発表された昨年12月の消費者物価は前年同月比+2.92%となり、前月(同+2.72%)から伸びが加速しているものの、引き続き中銀目標(2.5±1%)の範囲内で推移している。前月比は+0.64%と前月(同+0.17%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格が上昇に転じる動きをみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇基調を強めるなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.38%となり、前月(同+2.36%)からわずかに伸びが加速しているものの、インフレ率と同様に中銀目標の範囲内で推移している。前月比は+0.20%と前月(同+0.17%)からわずかに上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが上昇するとともに、金融市場における通貨ルピア安に伴う輸入物価の上昇も重なり、幅広く財価格が押し上げられる動きがみられるほか、一部のサービス物価も上昇するなど、幅広くインフレ圧力が強まる様子がうかがえる。

また、同日に発表された昨年11月の輸出額は前年同月比▲6.60%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲2.31%)からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少しているうえ、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。トランプ関税の本格発動の影響に加え、国際商品市況の調整の動きも輸出額の重しとなっているほか、中国景気を巡る不透明感も輸出の足かせとなる展開が続いており、幅広い分野で輸出が下振れする動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+0.46%となり、前月(同▲1.15%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は2ヶ月連続で減少したと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。国際原油価格の調整の動きを反映して関連輸出に下押し圧力が掛かるとともに、輸出の先行き不透明感に加え、足元の景気が頭打ちの様相を強めていることも輸入の重しとなっている。結果、貿易収支は+26.62億ドルと前月(+23.93億ドル)から黒字幅が拡大している。

図3 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 ID 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。